

柏崎市 こども・若者ヒアリング調査

報 告 書

令和7(2025)年10月

柏崎市子ども未来部 子どもの発達支援課

目 次

学生ヒアリング	3
1. 概要	3
2. テーマ	3
3. 結果	4
4. ヒアリング実施後: アンケート結果(概要)	7
5. まとめ	8
6. その他(当日の雰囲気等)	9
 困難な課題を有するこども・若者ヒアリング① 不登校の状態にあるこどもへのヒアリング	13
1. 概要	13
2. テーマ	14
3. 結果	14
4. まとめ	16
5. その他(当日の雰囲気等)	17
 困難な課題を有するこども・若者ヒアリング② ひきこもりの状態にある若者へのヒアリング	18
1. 概要	18
2. テーマ	19
3. 結果(アンケート結果含む)	19
4. まとめ	23

学生ヒアリング

1. 概 要

(1) 目 的

本ヒアリングでは、令和 7 年 5 月に実施した「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」の結果をより深めること、また、テーマに応じた若者の現状・考え(ニーズ)を具体化することを目的とする。

(2) 対 象 者

柏崎市内2大学(新潟工科大学、新潟産業大学)に在籍する学生

(3) 回答人数

30 名

(4) 日 時

新潟工科大学: 令和 7(2025)年 6 月 18 日(水) 16:20~17:50

新潟産業大学: 令和 7(2025)年 7 月 11 日(金) 15:00~16:20

(5) ヒアリング方法

2つのグループに分け、KJ 法の要素を取り入れて意見出し(ブレスト)をする。

※ グループ分けは、「柏崎市にずっと住みたい派」・「柏崎市にずっと住むのはちょっと・・派」の2つ。
ヒアリング当日、学生が選択する。

2. テーマ

柏崎市について	柏崎市にずっと住みたい派	* 柏崎市のいいところ * 柏崎市はこうなるともっとよい
	柏崎市にずっと住むのはちょっと・・派	* 柏崎市の残念なところ * 柏崎市はこうなったらよいのに
仕事について		* 仕事を選ぶときに重視するところ * 就職活動(将来)で大変なこと・不安なこと
恋愛・結婚観/子育てのイメージ		* 恋愛・結婚のイメージ * 子育てのイメージ

3. 結 果

テーマ①『柏崎市について』	
柏崎市のいいところ	
主な意見	・自然が豊か。海がある。空気がおいしい。米がおいしい。海鮮がおいしい。 ・柏崎市の人は優しい、温かい。柏崎市役所が新しい。 ・水道水が冷たい。 ・海での花火大会がよい。障害物が少ないため、遠くからでもよく見える。 ・松雲山荘のライトアップがよい。 ・市民が楽しめるイベント(えんま市、風の陣、どん GARA、クラフトビール展など)がある。 ・ブルボン(大企業)がある。スポーツ用の施設が多い。水球が強い。 ・市内に2つの大学がある。
柏崎市の残念なところ	
主な意見	・お店や遊ぶところなど、娯楽がない。日常生活は困らないが、「あったら良い」がない。何もない印象。 ・商店街や駅周辺に活気がなく、機能していない。お店のジャンルが偏っている(ラーメン屋が多い)。 ・医者が少ない。医療機関の選択肢がなく、常に混んでいる。 ・素敵なイベントや資源があっても、市外への告知が控えめ。広報力が弱い。 ・車で移動が主となるため目的地にしか行かず、人との交流が少ない。人と交わる場がない。 ・公共交通インフラが脆弱。車がないと日常生活が送れない。 ・市内に2大学あるが、大学間の交流はない。若者が定着しない。人手不足。 ・海があるが汚い。海辺を裸足で歩けない。花火大会以外で海を活かせていない。
柏崎市はこうなるともつとよい / 柏崎市はこうなったらよいのに	
主な意見	・SNS での発信強化。イベントの告知の促進、WEB サイトを活用して市外・県外の人に向けて発信する。 ・海や公園の規制(例:公園でのボール遊び禁止、海での花火禁止等)を緩め、自然を活かせる遊びができるようにする。⇒身近な場でのこども・若者の遊びの幅が広がる。せっかくの海を有効活用する手立て。 ・お金をかけずに、長時間いられる場や若者同士が遊ぶ場・交流する場を設置して、娯楽を充実させる。 ・スポーツ施設を有効活用し、スポーツを通じた交流(スポーツ大会等)を増やす。 ・自然を活かし、広い土地や雪などを活用するイベントを多く開催する。 ・カーシェア・自転車レンタル等の気軽なレンタル制度を創設する。市民が、車がなくても生活できるように、公共交通インフラを強化する(あいくるの強化等)。 ・市内のみで使えるポイント制度等を充実させて商店街に活気を出す。 ⇒学生は、「お得なものは使わないともったいない」と思い活用する。商店街全域でイベントを開催することで、若者の関わりを増やし、地域との繋がりを強化する。それにより、若者の定着を図る。 ・有名企業を誘致。「柏崎市で働きたい」と思える魅力(職場)をつくる。
【 総括 】	
* 学生のイベントへの期待(ニーズ)の高さが伺えた。既存のイベントの周知拡大で市外の人を呼び込むこと、新たなイベント(交流目的)を開催することへの期待や意見が多く上がった。 * 柏崎に愛着がある学生もいる一方、こども・若者の遊ぶ場・交流の場の少なさから魅力を見出せない状況がある。多くの若者が市外流出することにより、愛着があった若者も定住しないという悪循環が生じている。 * 豊かな自然を十分に活かしきれていない・海をもっと魅力的にするべきとの意見が多かった。 * 交通インフラの脆弱さへの意見が多く、あいくるについては浸透していない(若者のニーズに合致しない)。車を持つ学生も多いが、車がないと生活できないことへの不満・不安の声が多く上がった。	

テーマ②『仕事について』

仕事を選ぶときに重視するところ

主な意見

- ・やりがい。自分のやりたい(楽しめる)仕事内容か。学んだことを活かせるか。
- ・自分の時間(プライベート)を確保できるか(残業が多くない、有給が取りやすい等)。
- ・待遇(給与)面。
- ・職場の人間関係・雰囲気がいかがい。
- マイナビ等の情報、先輩やインターンの情報等を自分で確認する。
- 若者の離職率の高い職場は避ける。
- 職場の飲み会も歓迎だが、年代の近い人がいないと困る。
- ・就職後も学ぶことができるか・資格取得などへの支援があるか等、スキルアップできるかどうか。
- ・勤務場所(通いやすさ・駅からの近さ等)。

就職活動(将来)で大変なこと・不安なこと

主な意見

- ・仕事をしている自分が想像できない。仕事を続けていけるのか・仕事(社会)についていけるか不安。
- ・就職できるか・希望の就職先が見つかるか不安。就職活動の細かいノウハウがわからず不安。学歴フィルターはあるのか?! 就職活動は本当に終わるのか?!
- ・大学3年時のガイダンスやインターンで示されたとおりに就職活動をすれば就職できると思う。
- ・仕事は未知のことなので、漠然と怖い。
- ・企業の情報をどのように集めればよいのか、企業をどのように判断すればよいのかわからない。
- ・自分がどの仕事に向いているのか、就きたい職業に適しているのかわからない。
- ・働いても、税金が多く取られそう。親の援助なく、すべての生活費を自分の収入で賄えるのか不安。
- ・老後は年金がもらえなさそうなので不安。
- ・AIの発展により職を失うのではないかと不安。

【総括】

- * やりがいを求める学生が多い。給与等の待遇面に関する意見と並び、「仕事を楽しめるか」、「働き続けられるか」等の意見を真っ先に取り上げる学生が多かった。
- * やりがい・待遇等に次いで人間関係についての意見も多く聞かれた。
- * 就職先を検討する手立てとしては、マイナビ等の情報を重視する傾向が強い。若者の求人については、インターネット関連の情報掲載が非常に重要(有効)であり、欠くことのできない要素となっている。
- * やりがいを求める一方、ワーク・ライフ・バランス(自分時間の確保)についても、多くの意見が上がった。時間外労働や長距離出勤への抵抗感が大きい。
- * 学生(大学に所属している間)は、就職支援が整っているため、「職に就く」ことに対する不安は強くない印象であるが、その一方、卒業後(就職できなかった場合や転職等)については、現時点で想像し難い様子が伺えた。また、「自分に適した仕事(企業)であるか」、卒業後の変化を想像し難く、「自分が仕事を続けていけるのか」を気にする学生が多かった。

テーマ③『恋愛・結婚観/子育てのイメージ』

恋愛・結婚観

主な意見

- ・結婚すると制限が増え、自由がなくなる(人生の墓場)。婚活は末期。そもそも興味が無い。
- ・結果として(自然な流れで)結婚するのはよいが「結婚したい」とまでは思わない。
- ・今は結婚しなくてもよいが、年をとったときに結婚したくなるかも。老後の寂しさを埋める。
- ・パートナーがいたほうが楽しいかも。幸せになれるかも。苦しいことも分かち合える。孤独死しない。
- ・1人では行きづらい場所(お洒落な場所など)にも一緒に行くことができる。
- ・価値観の相違がありそう。相手に合わせて生活するのが大変そう・疲れそう。
- ・自分のことで手一杯で相手のことまで考えられない。面倒くさい。
- ・結婚するだけであればお金の心配はあまりない(一馬力から二馬力に)。
- ・家事分担ができるメリットもあるが、女性の家事負担が大きくなるのではないかと不安もある。
- ・若者の交流の場がないため、出会いがない。出会いの場とすれば友人の紹介かマッチングアプリだが、市内に若い人がいないため、アプリに登録してもマッチングしない。アプリは怖い。
- ・まちコン(トピコン)があるとよい。ガチガチな「婚活目的」となると参加しづらいが、気軽な交流目的で開催されれば参加したい。
- ・そもそも自然な流れがわからない。恋愛の経験が乏しく、漫画の知識しかない。

子育てのイメージ

主な意見

- ・こどもから目が離せない。自分の時間がなくなる。子育ては大変そう。
- ・男性の育休取得がもっと進んでほしいが、育休制度が確立されても、結局男性は取得しづらそう。
- ・お金がかかる。大学卒業までを考えると、夫婦で賄えると思えない。経済的支援を充実させてほしい。
- ・教育の仕方がわからない。自分が親にもらったようにこどもにできないと思う。
- ・医療費を無料にしてほしい。他の市で医療費無料の制度があれば転居を考えたい。
- ・病院の数が少ない、選択肢がない。
- ・子育てと仕事の両立ができなそう。体調不良時に不安がある。もっと病児保育が充実して欲しい。
- ・こどもを遊ばせながら親同士が交流できる場がほしい。博物館や図書館を大きく造り変えて、こどもや若者が遊び、長く居られ、交流しながら学べる場所になるとよい。
- ・今は「こどもがほしい」とまでは思わないが、年をとった後にこどもがほしくなるかも。でも高齢になってからでは遅いという不安もある。高齢出産となった場合の支援があると安心できる。
- ・こどもの成長を楽しみに、幸せが増える。こどもに癒されそう。親に孫を見せてあげたい。
- ・自分が子育てをすること自体がイメージできない。

【 総括 】

- * 結婚・子育てどちらも、「自分の時間(自由)がなくなる」ことへの不安・抵抗感が強い。
- * 「結婚しなくてよい」と言う学生も、「結婚というかたちには拘っていない」と言い、結果的に結婚に至ることには肯定的な姿勢が見られた。また、「今は結婚願望はないが、高齢になった時に同じ気持ちかはわからない」との意見もあり、無意識化では「結婚したほうがよいかも」という想いもあるような発言が伺えた。
- * 若者の交流の場が少ないとの意見(ニーズ)と比例して、「出会いの場がない」との意見が多かった。婚活目的の出会いではなく気軽な交流を求める意見が多く、人工的な婚活プロセスではなく、自然な流れを求める学生が多い。
- * 子育てについては、お金への不安の声が圧倒的に多かった。自分と同じように、こどもの大学進学までを考える学生も多く、教育費用に関する不安が強い。こどもを持つことの抵抗に繋がっている。
- * 恋愛・結婚・子育てすべてにおいて、具体的にイメージできないとの声も多く挙がった。特に恋愛経験が少ない学生はその傾向が強く、漫画等のイメージをそのまま抱いているよう。

4. ヒアリング実施後：アンケート結果(概要)

(1)年齢

年 齢	人 数
18 歳	6 名
19 歳	7 名
20 歳	5 名
21 歳	9 名
22 歳	2 名
25 歳	1 名
計	30 名

(2)性別

性 別	人 数
男性	21 名
女性	9 名
計	30 名

(3)ヒアリングについて

感 想	人 数
参加してよかった	29 名
参加しなければよかった	0 名
どちらでもない	1 名
計	30 名

(4)県・市の施策への自分の意見反映について

感 想	人 数
反映させたいと思う	22 名
反映させたいとは思わない	2 名
どちらでもない	6 名
計	30 名

(5)将来への不安

感 想	人 数
不安に思う	19 名
どちらかといえば不安	8 名
不安ではない	3 名
計	30 名

(6)柏崎市を子どもや若者が「住み続けたい」と思えるまちにするための意見・要望など(自由記載)

意見・要望など(抜粋)

- ・柏崎市の商店街や個人経営の店に入ったときに、とてつもない魅力を感じたことがあるが、その店に入るまで、その店の存在すら知らなかった。そのような店をもっと PR してほしい。
- ・商業施設を増やす・活性化する必要がある。柏崎市で普段の暮らしが完結できるまちにしてほしい。
- ・バッティングセンターのような身体を動かす施設や映画館など、こども・若者の遊び場を充実させる。
- ・市全体に、もっと活気のある雰囲気があるとよい。駅周辺が賑わっていないと寂れた雰囲気を受ける。
- ・こども・若者主体のまちづくり、こども・若者を受け入れる雰囲気をまち全体で持つ。
- ・仕事などを増やし、人が柏崎市に移住できるようにする。人を増やす政策を考えて欲しい。
- ・若者が流出しないようなまちにする。
- ・子育て支援の充実が必要。
- ・柏崎市らしさと繋がりを大切にしていけるべきだと思う。
- ・柏崎市の取り組みが、対外的にもっと広く知られる必要がある。広報などの発信にもっと力を入れるべき。
- ・柏崎市の魅力を知る機会がない。魅力があるのであれば、積極的に発信する。
- ・建物の立地や種類でイメージが変わると思う。若者向けの施設や店舗というものはどうしても関東圏や都市部に集中してしまうが、このまちならではの、の雰囲気を作り出せるとよい。
- ・車がなくても生活できるまちにする必要がある。「あいくる」の現在の運用では不十分。バス、電車の本数を増やすなど、移動しやすくして欲しい。

5. まとめ

(1) 柏崎市について

柏崎市の魅力について

「自然」と「海」が意見の大半を占めていた。また、イベントに関する意見も多く、若い年代のイベントニーズの高さが伺えた。柏崎市の「夏の時期のイベント」を高く評価する意見が聞かれた一方で、冬のイベントのインパクトの弱さや他者交流ができるイベントを求める等の意見が挙がった。

柏崎市の改善点について

WEB サイトやSNS等の発信の弱さに関する意見が多く挙がっていた。本ヒアリングの参加者は、柏崎市以外からの出身学生が大部分を占めていたため、柏崎市についてよく知らない学生が多かったことも広報やPR不足に対する意見が挙げられた一因と考えられるが、若い年代の情報収集手段はSNS等が大部分を占めていること、他のPRでは浸透しにくいことも推察された。

また、他の調査と同様に、「子どもや若者の遊ぶ場(娯楽)がない」との意見は圧倒的に多く、ほぼすべての参加者から聞かれた。今はどこに住んでいても、SNS等を通じて他自治体の情報が入るため、他と比較することで、「柏崎市には何もない」との意識がより高まっているようだった。娯楽がないことが、若者の市外流出に繋がるとの意見も多く聞かれた。

その他、学生についてはすぐに車を持ってない場合もあるが、柏崎市での生活は車がないと成り立たないとの意見から、公共交通インフラの脆弱さについての意見も多く挙がった。

(2) 仕事について

仕事選びで重視する点について

「やりがい」に関する意見が真っ先に上がり、「自分のやりたい仕事に就きたい」、「学んだことを活かせるか」等の声が多く聞かれた。特に、やりたいことが定まっている学生にとっては、この「やりがい」をととても重要視している様子が伺えた。

次いで、福利厚生に関する意見が多く、残業時間の多さ＝ブラック企業と捉え、プライベート時間を確保したいという意見が多かった。特に学生時は、時間を自由に使えることもあり、この生活が一変することへの不安の声が聞かれた。

就職活動・将来への不安、大変さについて

学生は、大学内で就職活動のサポートを受けられるため、「やりたい仕事に就けるか」という不安は抱えつつも、何かしらの仕事には就けるだろう、という様子で、就職できるかという不安は大きくないようだった。

企業を選ぶ際には、マイナビ等の WEB サイトやインターネットの情報を基に選択している学生が多く、若者の求人インターネット情報は欠くことができない媒体となっている。その他、学生ならではのインターンでの経験や先輩からの口コミも重要な情報源となっている様子。その一方で、インターネット等に情報が無い企業についてはどのように探してよいかわからず、柏崎市にどのような企業があるのか「わからない」・「知りたい」との意見も多く聞かれた。

(3) 恋愛・結婚観、子育てのイメージについて

恋愛・結婚観

「恋愛して⇒結婚して⇒こどもを持つ」という概念には縛られたくないという様子が伺えた。自然な結果として結婚に至ること自体は否定せず、「結婚願望がない」と言う学生も、絶対に結婚したくないというよりは、「結婚することを目指してはいない/目指したくない」という様子であった。

また、漫画やテレビ等から受けるイメージも大きく、「～～そう」という漠然としたイメージを抱く言葉が多く聞かれた。学生の年代での経験の少なさも、漠然とした不安やマイナスイメージに繋がっているように見受けられた。

「出会い」に関しては、市内で若者が交流する場が少ないこと、婚活という言葉に強い抵抗感があること等により、「異性と出会う機会がない」との意見が多かった。婚活のみを目的としない・気軽な交流の場を求める意見が聞かれた。

子育てのイメージ

子育てについては、「大変そう」「お金がかかりそう」というイメージが強い。本ヒアリングの対象が社会に出る前の学生であることもあり、自分が「親になる」イメージが抱きにくいようだった。その一方で、「高齢になってからこどもが欲しくなるかもしれない」という発言も聞かれ、こどもを持つことについては年齢的な制約があることから、気持ちが変わった場合を想定して漠然と不安に感じている学生もいた。高齢出産となった場合の支援、不妊治療に対するサポートも、今後はより求められると推察される。

6. そ の 他（当日の雰囲気等）

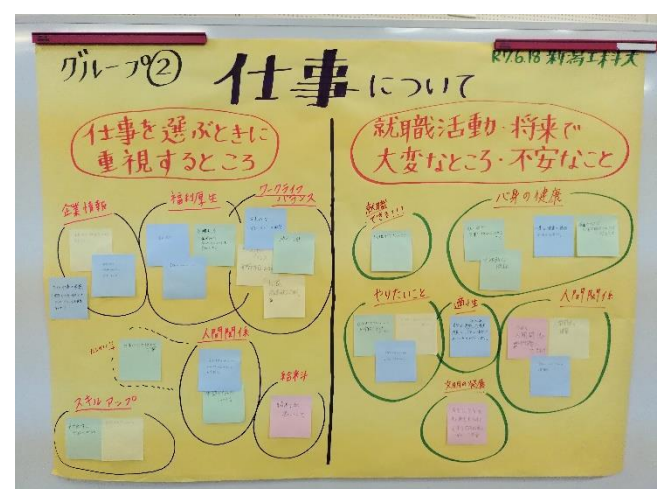
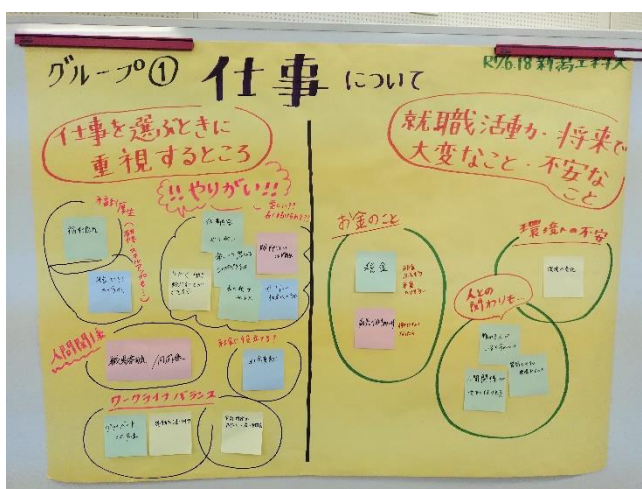
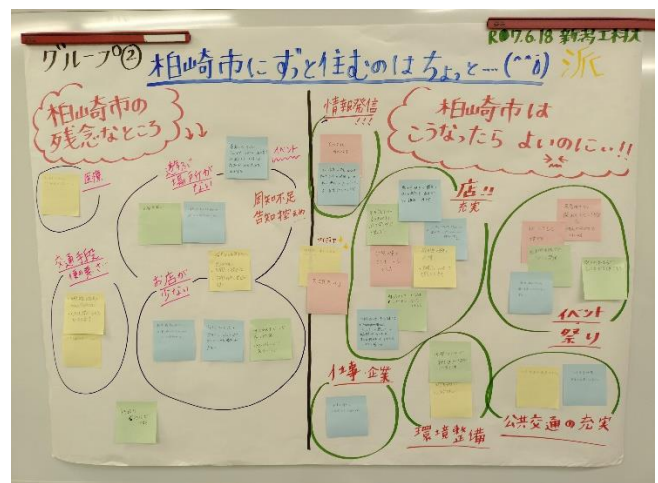
2025.6.18 新潟工科大学

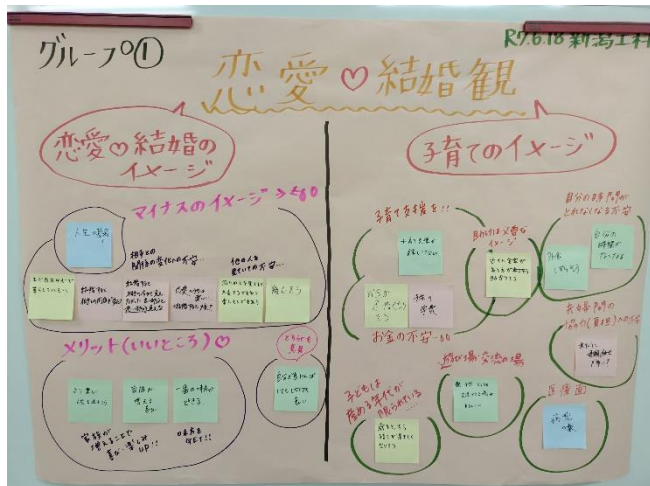
ヒアリングの様子





グループワークの記録



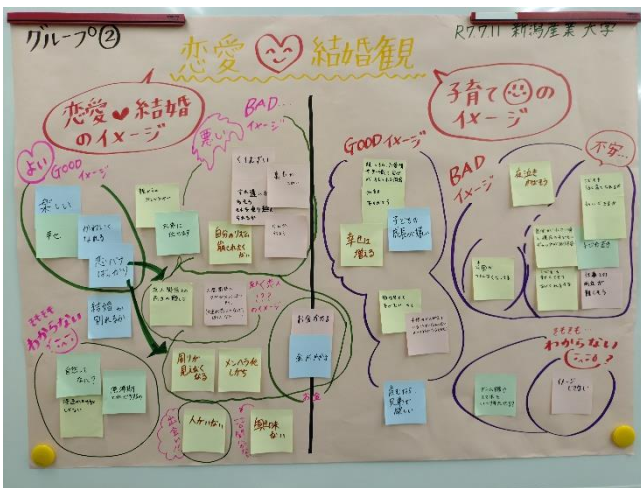
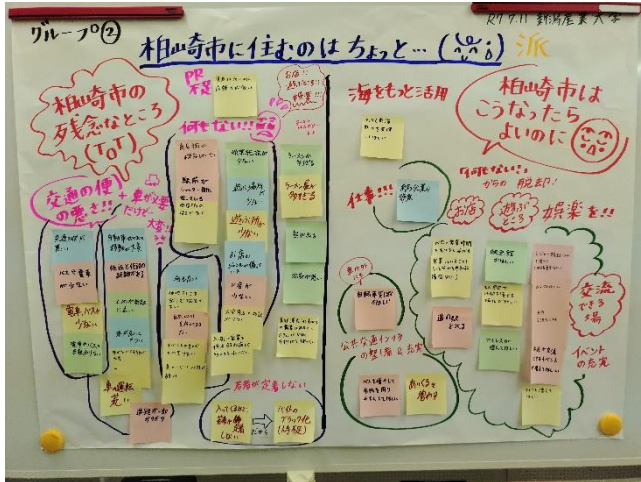


2025.7.11 新潟産業大学

ヒアリングの様子



グループワークの記録



不登校の状態にあるこどもへのヒアリング

1. 概 要

(1) 目 的

本ヒアリングでは、対象者の実態把握・課題抽出を主目的とはせず、学校に苦手さを感じているこどもの率直な想いや意見を把握し、当該計画の施策に反映させることを目的とする。

(2) 対 象 者

柏崎市適応指導教室「ふれあいルーム」通級児童・生徒
一般社団法人 CLAST(フリースクール)利用生徒

(3) 回答人数

計 9 名 (ヒアリングが可能であり、協力同意のあった児童・生徒)

(4) 日 時

- 第 1 回 令和 7(2025)年 5 月 19 日(月) 10:45~11:15
:ふれあいルーム通級生(中 2 女子、中 3 女子、中 3 男子)
- 第 2 回 令和 7(2025)年 6 月 11 日(水) 10:45~11:05
:ふれあいルーム通級生(小 5 男子)
- 第 3 回 令和 7(2025)年 6 月 18 日(水) 11:00~11:15
:ふれあいルーム通級生(中 3 男子)
- 第 4 回 令和 7(2025)年 8 月 6 日(水) 13:00~13:50
:CLAST 利用生徒(中 2 女子、中 3 男子・女子、高 1 女子 他)

(5) ヒアリング方法

① イベント方式:第 1 回

… 参加した生徒が自分の意見を出しやすくなるよう、イベント方式とした。

(内容)「計画担当者が子どもの気持ちをどれだけ理解しているか」を試すゲーム

- サイコロを振って、5 つのテーマのうち出た目のお題に対し、クリップボードに意見を書く。
- 計画担当者は、通級生の気持ちを予想して回答を書く。
- 一斉にクリップボードを見せ合う。
- 1 つ合っていたら 1 ポイント。3 セット行って、計画担当者が 5 ポイント以上であれば合格。

② 個別での聴き取り方式(個別ヒアリング):第 2~4 回

… 指導員等の同席のもと、計画担当者による個別の聴き取り(ヒアリング)を実施した。

③ 集団での聴き取り方式(グループヒアリング):第 4 回

… CLAST 担当者同席のもと、聴き取り(ヒアリング)を実施した。

2. テーマ

キーワード	テーマ	補 足
柏崎市	<u>柏崎市のよいところ</u>	➤ 柏崎市のこんなところが好き！ ➤ 柏崎市のおすすめスポット ➤ なければ「ない」でも OK
相談	<u>困ったときはこんな人に相談したい</u>	➤ どんな性格？(優しい、まじめなど) ➤ 自分とどんな関係にある人？ (家族、友だち、先生など)
居場所	<u>安心して過ごせる場所</u>	➤ どんな場所？ (静かな場所、にぎやかな場所など) ➤ 特定の場所？ (自分の部屋、トイレ、〇〇公園など)
余暇	<u>至福の時間</u>	➤ どんなことをしているときが楽しい？
学校生活	<u>理想の学校</u>	➤ こどもが「行きたくなる」学校とは？ ➤ こうなるとよいなあ～..願望で OK ➤ なければ「ない」でも OK

3. 結 果

テーマ	具体的な意見/発言など	総括
<u>柏崎市のよいところ</u>	・海が近い、海水浴ができる。 ・アクアパークやアカデミーがありプールが充実している。 ・松雲山荘がきれい。 ・えんま市の雰囲気がいい。 ・おいしい飲食店がある。 ・駅前公園は広くて大勢の友だちとも一緒に遊べてよい。 ・アクアパーク、陸上競技場、ソフィアセンターなどが集合しているため、近くに住んでいる場合は利用しやすい。 ・フォンジェにスーパーがなくなり、高齢者にとって不便と感じるが、あいくるを活用できるのならよいと思う。 ・あいくるは希望の日時に予約がとれない・予定時間に来ないこともあったので、もっと活用しやすくなるとよい。 ・何もない。 ・アピタのような大きなお店やショッピングモールが欲しい。 ・映画館やミスタードーナツがあるとよい。	* 対象者の年齢からすると他市の情報は少なく、他と比較するような意見はあまり聞かれなかった。 * 柏崎市について考えることが初めてな様子で、戸惑っていた印象。一生懸命に考え絞り出したという様子だった。わかりやすい(目にとまりやすい)事柄を上げている印象。 * ふれあいルーム通級時にあいくるを利用する生徒については、あいくるを身近に感じている。

<u>困ったときは、こんな人に相談したい</u>	・仲のよい友だち ・自分の性格に似た人 ・お母さん ・家の人には相談できない。 ・ふれあいルームの指導員 ・CLAST の職員 ・こどもの気持ちがわかってくれる人、自分の話をわかってくれそうと思うと話しやすい。 ・先生に相談することは、考えたことないかも…。友だち感覚のフレンドリーさがあると相談しやすい。 ・真面目な人は無理。正論を言う人には話せない。わかってはいてもいろいろ無理だから悩んでいる。 ・口が軽く、すぐに人に言うような人には相談できない。 ・ゲームで知り合った人やネット上の知合いは、実際に会わないからこそ安心して相談できる。 ・優しすぎる人は嫌、でも優しくされないのも嫌。距離感がすごく大事。そして優しさだけでなく雑さもあるとよい。	* 一緒にいる時間が長く、信頼できる身近な存在を相談先として捉えている児童・生徒が多い。 * 周囲の配慮を要する子もいれば、配慮される(優しくされる)ことを煩わしく感じる子もいるため、マッチングが重要。 * 正論(答え)を求めてはならず、こどもの想いを受容し導き過ぎない支援、エンパワメントを高める姿勢で接することができる人を求めている印象を受けた。 * ゲームやインターネット上での関係性の相手に相談しやすさを感じることも多い。
<u>安心して過ごせる場所</u>	・家(自分の部屋やリビング、ベッドの上) ・家に誰もいなくて1人になったときに安心する。 ・声もなにもない密室みたいなところなら、ストレスを感じなくてよい。 ・自分のことを全く知らない他人がいるところ ・ふれあいルームや CLAST ・学校のトイレでいたずらされたことがある、安心できない。 ・公園のルールが緩やかになると行きやすい。公園でスケボーやボール遊びができることは絶対に必要。公園には楽しい遊具が沢山ほしい。 ・ネット環境があるところ、WiFi があることが重要。家にいろいろと揃っているため出ていく必要がない。でも、スペックの高いパソコンが自由に使えるのなら、出たくなる。 ・ゲームセンターはお金がかかるので、お金がかからず遊べるところがあるとよい。 ・徒歩や自転車で行ける範囲のことしかわからない。柏崎市に自由に利用してよい公共施設があることを知らない。 ・公共交通機関が気軽に使えないため、行動範囲を広げられない。あいくるは予約がとれない上に終了時間が早い。せめて18時まで利用できるようにしてもらいたい。	* 家を居場所と認識する声が多い。こどもにとって、家を過ごしやすく、安心できる場にすることの重要性が伺えた。 * 適応指導教室やフリースクールなど配慮された環境に安心感を得やすい。 * 中学生は公園離れする年代であるが、公園の話題は、他の設問に比して意見が出やすく、良くも悪くも身近なものと捉え、関心度が高かった。 * ネット環境、WiFi 環境を重視する意見もあり、よりよい設備を利用できることが外出のきっかけになり、安心に繋がることも多い。 * 年齢的にも行動範囲が狭く、柏崎市内の情報は自宅周辺に限られている。
<u>至福の時間</u>	・ゲームをしているとき ・仲のよい友だちと会って話すとき、友だちと話して笑うことで1番気が晴れる。 ・自分と気の合う友だちと一緒にいるとき ・CLAST で麻雀やトランプをして皆で遊ぶとき(1人でゲームばかりしていると飽きる) ・1人で本を読んでいるとき	* ゲームを上げるこどもが圧倒的に多かった。 * 1人でいることに心地よさを感じる子が多い一方で、仲のよい友だちを求める声も多く聞かれた。 * 安心できる環境であれば、人

	・寝ているとき ・アニメをみたり、絵をかいたり、音楽を聴いたりするとき ・AIとの会話 ・彼氏と一緒にいるとき ・嬉しいことも楽しいこともない、人に迷惑をかけないで人生を終了したい。	との交流も楽しく感じる様子。 ＊ 発言には、思春期ならではの葛藤も含まれている。
<u>理想の学校は？</u>	・給食が豪華になると楽しみになる。 ・となりの席に友だちがいる、仲のよい友だちと同じクラスになる、仲のよい友だちが沢山いる。 ・自分と好きなことが同じ友だちがいると話も合って学校に居やすい。 ・学校でも病気や障がい(特性)のある子と一緒に、という流れだが、それによる負担が強い。いたずらされると思うと安心して学校に居られなくなる。分けてもらったほうがよい。 ・学校でゲームができるとよい。 ・思いやりのある先生、こどもの目線で話してくれる先生がいるとよい。 ・学校で疲れたときに、眠れたり休めたりするとよい。 ・学校の「皆と一緒に」という感じが嫌、できない人をどんどん炙り出す感じが嫌。学校の雰囲気嫌。 ・学習的な勉強のない学校だとよい。体験重視型の学習。 ・堅苦しくない学校だとよい。私服。校則がない。 ・自由に過ごせるフリースペースがあるとよい。 ・いじめがない学校がよい。 ・学校のキッチリしているところが嫌。学校は嫌い。人と関わりたくない。	＊ 仲のよい友だちが学校にいることは、こどもにとって非常に重要なポイントとなっている。クラス替えや席替え、転校などはこどもにとって大きな出来事であり、学校の居やすさに大きく関わる。 ＊ インクルーシブ教育については、促進すると同時に、全方位的な配慮・環境等の体制整備が必要。 ＊ 給食への意見が多く、食の楽しみは大きい様子。 ＊ 学校に対する負の感情が強いこどもにとっては、学校の雰囲気全体に苦手感がある印象。 ＊ 学校生活での自由度が広がることを求めるこどもも多い。

4. まとめ

本ヒアリングは、小・中学生の年代を主な対象としていることから、柏崎市全般に対する意見については、出にくさがあった。

ヒアリング項目の中では、余暇時間(至福の時間)に関して、最も多くの意見が挙げられた。特にゲームやインターネットについては、積極的に話してくれる子もいて、好きなこと・得意なことは話がしやすい様子だった。また、本ヒアリング全体を通して、仲のよい友だちの存在を重要視する意見が多く聞かれ、小・中学生にとっての友人関係は、非常に大きなウエイトを占めていると言える。

また、安心して過ごせる場所については、「自宅」と答えるこどもが圧倒的に多かったが、自宅の中でも「自分の部屋」や「家族が全員出かけたとき」と言うこどもも多く、学校に行っていないという状況を無意識的に負い目に感じていると推察された。

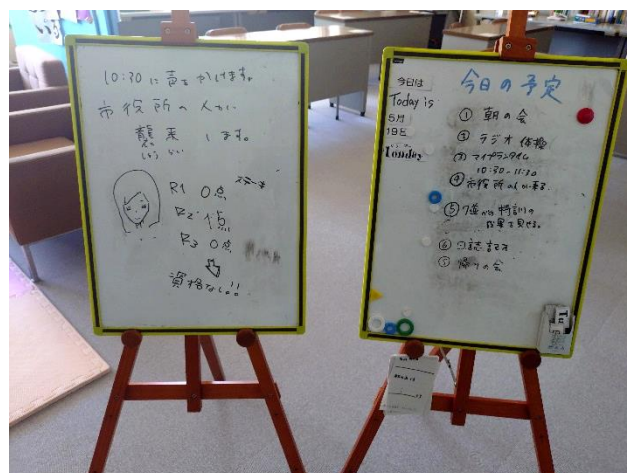
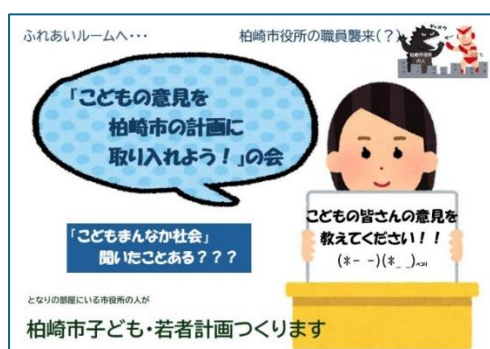
相談しやすい人については、「お母さん」と言う子もいれば、「家の人には相談できない」と言う子もいて、また、配慮を要する子もいれば、配慮され過ぎることに煩わしさを感じる子もいて、不登校の児童・生徒のニーズは、その置かれた環境に応じて大きく異なるものと言える。

本ヒアリングで対象とした「ふれあいルーム」と「CLAST」は、学校以外で不登校のこどもが通うことがで

きる場となっているが、市の適応指導教室と民間のフリースクールでは、その活動内容や雰囲気は異なることも多く、それぞれにマッチングすることも異なる場合がある。不登校のこどもの置かれた環境、ニーズ等は非常に多様であるが故に、さまざまな受け皿、選択肢があることが、こどもの通える場・居場所の充実に繋がっている。

当市の不登校の児童・生徒数は、依然として増加傾向にある。こどものエネルギーを回復するためには、必要なタイミングで活用できる居場所があることが重要であり、そして学校復帰や社会的自立等を支援するためにも、こどもが心地よく過ごせ、通い続けられるような場の提供、社会環境を構築すること、その取組を前進させていくことが重要な課題となる。

5. その他（当日の雰囲気等 ※第1回のみ）



ひきこもりの状態にある若者へのヒアリング

1. 概 要

(1) 目 的

本ヒアリングでは、対象者の実態把握・課題抽出を主目的とはせず、ひきこもりの状態にある(ひきこもりの状態にあった)若者の考え等を把握することで、当該計画の施策に反映させることを目的としている。

(2) 対 象 者

ひきこもり支援センター(アマ・テラス)登録者であり、ヒアリングへの協力同意を得た若者

(3) 回答人数

計 8 名

(4) 日 時

《個別ヒアリング(4名)》

26歳男性：令和7(2025)年6月4日(水) 15:00～15:20

18歳男性：令和7(2025)年6月17日(火) 9:30～9:50

22歳男性：令和7(2025)年7月24日(木) 11:00～11:20

18歳女性：令和7(2025)年8月12日(火) 15:30～15:20

《グループヒアリング(4名)》

18歳女性、20歳男性、23歳女性、26歳女性

：令和7(2025)年6月9日(月) 14:30～15:00

(5) ヒアリング方法

① 個別での聴き取り方式(個別ヒアリング)

- … ひきこもり支援センター(アマ・テラス)担当者同席のもと、計画担当者による個別の聴き取り(ヒアリング)を実施した。

② 集団での聴き取り方式(グループヒアリング)

- … ひきこもり支援センター(アマ・テラス)担当者より、当事者交流会参加者に対して、聴き取り(ヒアリング)を実施した。

※ ①・②ともに、簡易なアンケートを併せて実施した。

2. テーマ

(主なヒアリング項目)

- 余暇・自由時間の過ごし方
- 居場所/外出先について
- 就労に関するサポートについて
- 興味・関心のあること
- 困りごと・悩みごと/ひきこもり支援センターとの関わり経過について

3. 結 果 (アンケート結果含む)

(1)これまでの経験(アンケート:複数回答)

内 容	人 数
学校になじめなかった	3 名
小学校時代に不登校を経験した	3 名
中学校時代に不登校を経験した	8 名
高校時代に不登校を経験した	3 名
大学等時代に不登校を経験した	—
受験に失敗した	—
就職活動がうまくいかない経験をした	—
職場になじめなかった	—
人間関係がうまくいかなかった	5 名
病気をした	1 名
仕事を辞めた	1 名
家族などの介護や看護を担うようになった	—
あてはまるものはない	—

(2)困りごと・悩みごと(アンケート:複数回答)

内 容	人 数
日常生活に関すること	2 名
経済的なこと	4 名
医療・病気に関すること	1 名
学校のこと	1 名
仕事のこと	4 名
将来のこと	6 名
その他	1 名
困りごとや悩みごとはない	—
わからない/答えたくない	1 名

・老後のこと
・災害時のこと

(3)困りごと・悩みごとの相談先(アンケート:複数回答)

内 容	人 数
家族	6 名
友人	2 名
相談窓口、相談機関の人	4 名
インターネットや SNS	1 名
その他	—
相談しない	1 名
わからない/答えたくない	—

(4)ひきこもり支援センターとの関わり/きっかけ(ヒアリング)

主な発言
・家族からの相談:家族から進められて関わることとなった(4名)。 ・中学校の先生から教えてもらった(2名)。 ・保健師の人から紹介された(1名)。 ・市のカウンセリングを受けていて、高校卒業するに当たり、紹介された(1名)。 ・最初は相談機関を紹介されても何もわからない状況で戸惑った。そもそも情報自体がない・入らないこともあり、なにかの勧誘かと思うくらい、抵抗感があり不安。自分なりの下調べが必要だった。 ・「ひきこもり支援センター」という名称に抵抗感があり、印象がよくないと感じるが、わかりやすさも重要だと思う。とは言え、わかりやすすぎると、何かひっかかる部分がある。

(5)柏崎市の困りごと・悩みごと支援として、必要と思うこと(アンケート:複数回答)

内 容	人 数
身近な相談窓口の充実	4 名
医療・福祉などの専門的な支援の充実	1 名
家族への支援	3 名
居場所づくり	5 名
訪問支援	—
就労支援	1 名
社会体験活動の提供	1 名
支援者の育成・スキルアップ	—
啓発活動による地域の理解促進	—
医療機関との連携	1 名
学校との連携	3 名
その他	—

(6)余暇・自由時間の過ごし方(ヒアリング)

主な発言
・ゲーム(スマホ、プレステ等)、大人になってもゲームは楽しく、ゲームで課金したいという気持ちで、仕事をするキッカケやモチベーションにもなった。 ・自分の部屋で過ごすことが多い。 ・絵を描く。小説を書く。 ・録画したテレビや YouTube を見る。 ・SNS 等、インターネット上で交流をする。 ・自主的に勉強(漢字)。運動したり日光を浴びたりする。 ・買い物やコーヒー店に出かける。 ・出かけるためには、運転免許が必要。柏崎市は車がないと不便な地域で、出かけることができない。 ・柏崎市の公共交通機関は時間の制約が大きく、自由度がない。利用しづらい。 ・コメダ珈琲やスターバックスに行く。柏崎市にドトールやタリーズなどがあると余暇が広がる。

(7)居場所/外出先について(ヒアリング)

主な発言
居場所について ・家(自分の部屋、リビングなど)、自分の部屋が1番。 ・誰かに気兼ねせず、落ち着いてゲームできるところが安心する。結局は家になる。 ・居心地のよい空間を居場所としたいが、居心地については人によって異なるので、難しい。 ・安心して過ごせる居場所など特にない。インターネット上の交流についても、安心できる居場所というわけではない。 ・本来は自分の家は安心できる居場所なのだと思うが、そうでない人もいる。家が安心できない場がある場合に、安心して過ごせる避難先が欲しい。特に夜間、利用できる場所が欲しい。夜はどこも閉まってしまうので、夜に過ごせる場所、眠ったり休んだりできる場所があるとありがたい。クッションなど、柔らかいものがあると不安が和らぐ。 ・1人で過ごせる場所もよいが、人と集えるところがあってもよい。そこでゲームなどができると、ゲームを媒介に人とのコミュニケーションがとりやすくなる。ゲームをすることで思考を切り替えることができ、一時でも嫌なことを忘れることができる、自分を落ち着かせることができると思う。 外出先について ・自転車でドンキやゲオなどにゲームを買いに行く。 ・博物館の空気感が好きで、展示物を見に行く。 ・市内の自分で行ける範囲にゲームセンターがあるとよい。今は家族と出かけた時に長岡のゲームセンターに行っている状況。 ・柏崎市は娯楽が少ない。 ・そもそも行きたいところがないため、あまり外出しない。月1の受診や相談など、予定があるときだけ外出する。医師より日光を浴びよう指導を受けているので、自宅の庭先や畑には出る。 ・若者が皆でワイワイできるところがあるとよいと思う。小中学生の時にボーリング場に行って遊んだ記憶が残っているが、今はそのような施設は近づくなく、交通手段もないため、近くにあったら出かけやすいと思う。 ・若者が集まれる場があるとよいと思うが、柏崎市は中心街に出るまでに時間がかかる。免許を持っていないと難しい。新しく居場所を作るのは難しいだろうから、既にある施設を無料開放するとよいと思う。 ・日常生活品は柏崎市内でも買えるが、それ以外の特別なものや楽しみになるようなもの、専門的なものなどは市外(長岡など)に行く必要がある。 ・柏崎市にも丸亀製麺、ドミノピザ、ミスタードーナツ、ラウンドワン(屋内で遊べる巨大な遊び場)が欲しい。 ・柏崎市には、外出先、買い物などにおいて選択肢がない。選択肢があることはとても重要で、自分で選べるのが楽しみや満足度に繋がり、外に出るきっかけにもなる。 ・食が外出のきっかけになることもある。期間限定、数量限定等の食べ物を食べる・買うことが外出のモチベーションになる(出たくないが食べたい・・と葛藤しながらも外出する等)。ただし、そのようなお店が市内にないと難しい。 ・自分で市外に行けない人は、かなり不自由だと思う。

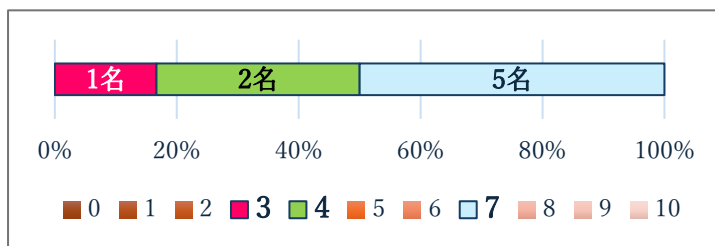
(8)就労に関するサポートについて(ヒアリング)

主な発言
・世の中に、どのような仕事があるのか知らない。就労の相談で「どんな仕事がよいか？」と聞かれても、何も知らない状態では答えられない。情報が欲しい。 ・例えば「製造業」と一括りに紹介されても、自分が求めるものか何なのか分からず判断できない。 ・仕事のジャンルを大きく分けて、もっと小分けにして、わかりやすく示してもらえるようなサポートがあるとよい。 ・仕事の経験がない若者は、そもそも仕事の種類がわからず、考えられない。 ・自分で調べるだけだと情報が不確かなので、実際に気軽な感じで職場見学ができるとよい。 ・動画で職場の様子を紹介する等、職場に行かずとも職場の雰囲気や働いている人の様子を知ることができる仕組みがあるとよい。 ・自分のように就きたい職種がわからない人には、柏崎市の仕事を具体的に紹介して欲しい。そこで興味を持った仕事の体験ができるとよい。思い描く仕事の様子と実際の仕事とのギャップを小さくしたい。 ・職場の人間関係に不安がある。職場のモヤモヤなどを自分の中にため込まずにすぐに相談できるような相談場所があるとよい。

(9)興味・関心があること(ヒアリング)

主な発言
・ゲーム関連のこと ・好きなアニメや漫画のこと ・社会的なもの(市内の職業など)を知りたい、触れていきたい。 ・政治については「何で？」とツツコミたい気持ちもあるが、自分の意見を反映させたい(参画したい)とまでは思わない。 ・政治のニュースが気になる。日本がどうなるのか、日本が変わるためにはどうしたらよいのか、自分なりに考え、選挙にも行った。 ・株や投資(ニーサなど)は、きちんと学んだことがない。気になるがわからない。 ・自転車のルールがおかしい。人通りの激しい都会と歩道に歩行者がいないような田舎のルールを一律にしないでほしい。車の運転をする側からすると、自転車が車道を走るのは危なく、特に高齢化の進んでいる地域については、事故が起こりやすい。 ・ひきこもり当事者が何を求めるか・・・は、いたって普通。他の若者と大きな違いはないと思う。 ・路線バスの時刻が変更され、利用していた便がなくなった。公共交通機関が不便と感じる。 ・お米の価格や品薄状況のこと、物価やガソリン代等。

(10)生活満足度(アンケート)



(11)柏崎市について(アンケート)

内 容	人 数
好き	3 名
どちらかといえば好き	2 名
どちらかといえば嫌い	—
嫌い	1 名
わからない	2 名

(12) 柏崎市に期待すること(アンケート)

自由記載
・柏崎市は、+αの商業施設がない。痒い所に手が届かない。楽しく・休め・買え・遊べる複合型の施設が1か所は欲しい。 ・こどもや若者が情報を得る機会が少ない。自分で情報を拾いに行かないと届かない。こどもや若者にも、柏崎市の情報が届くような手立てがあるとよい。 ・柏崎市に文学を楽しめるようなところがあるとよい。 ・祭り等のイベントのときに、柏崎市民には駐車場を無料にして欲しい。柏崎市民としての優遇があれば、住んでいてよかったと思えると思う。市内でも車がないと行けない地域が多いが、公共交通機関は充実していない。 ・柏崎市にはもう期待していない。実現して欲しいことはあるが、それをしてくれないのがわかってるので、何もない。 ・うどん屋やドーナツ屋がなくなったことが残念。人気のお店だったのに。そのような店があったほうがよいと思う。そうでないと、人がいなくなってもおかしくない。

4. まとめ

ひきこもり支援センター(アマ・テラス)が令和 6 年度に実施した「柏崎市ひきこもりに関する実態調査」においては、40 代以上の方でひきこもり状態に該当するも、支援に繋がっていないケースが多いことが示され、ひきこもりが顕在化しにくいという課題が挙げられている。本ヒアリングは、ひきこもり支援センター(アマ・テラス)登録者(既に支援に繋がっている若者)を対象としているが、支援に繋がったきっかけについては、「家族からの相談」の他に、中学校の先生や保健師、市のカウンセリング相談員からの紹介等が挙げられた。ヒアリングの中では、「何もわからない状態で紹介されても、不安になる」、「ひきこもり支援センターの名称に抵抗感があった」等の発言が聞かれたことから、ひきこもり状態にある方に、どのように情報を伝えるか、わかりやすさやイメージのしやすさ等も含め、周知・啓発への工夫が必要であると推察される。

アンケートでは、「これまでの経験」について、「中学校時代に不登校を経験した」と回答した人数は 8 名であり、回答者すべてが該当する結果だった。ひきこもり支援センター(アマ・テラス)の令和 6 年度の実績報告でも、不登校経験がある当事者の割合は約 65%とされ、ひきこもりと不登校の親和性が高いことが示されており、本ヒアリングにおいても同様の結果となった。また、本ヒアリングは若者を対象とし、かつ回答者すべてにおいて不登校経験があるも現在は外部との繋がりができていることからすると、若年(早期)の段階で支援が入ることが、ひきこもりの長期化を防ぐことに繋がると推察される。

「困りごと・悩みごと」については、6 名(75%)が「将来のこと」と回答し、4 名(50%)が「経済的なこと」、「仕事のこと」と回答している。「柏崎市ひきこもりに関する実態調査」においても、同様の設問において同様の回答傾向にあるため、今後、重点的に検討すべき課題である。

「困りごと・悩みごと支援として必要と思うこと」については、5 名(63%)が「居場所づくり」と回答し、次いで「身近な相談窓口の充実」が 4 名(50%)となっている。「柏崎市ひきこもりに関する実態調査」においても、本ヒアリングと同様の回答傾向にあるが、「居場所づくり」については、本ヒアリングのほうが高い回答を得ている。令和 7 年度に実施した「柏崎市若者の意識に関するアンケート調査」や「学生ヒアリング」でも、若者の居場所ニーズが高いことが示されており、また、本調査全体を通して、柏崎市における複合施設や遊び

場の設置等を望む声が非常に多く聞かれていることから、若者全体で同様のニーズを持っていることが推察できる。

最後に、本ヒアリングは、ひきこもり支援センター(アマ・テラス)登録者のうち、ヒアリングへの同意を得られる状況(外部と繋がり気持ちが外に向いている状況)にある 8 名の方から協力いただいた。ひきこもり期間は長くなく、社交的な回答者が多いこともあり、本ヒアリングが当市のひきこもり全体の実態を的確に捉えているとは言い難いものの、「困難を抱えている若者」として、ヒアリングを通して貴重な意見を伺うことができた。

今後は、ひきこもり支援センター(アマ・テラス)での活動実績や実態調査等とも併せ、継続的にひきこもりに関する課題の抽出・施策の検討を行っていく必要がある。